



古志原小学校だより

えがおいっぱい

令和6年度No.6

6月19日

(文責 校長 小林 敏朗)

6月8日(土)に運動会を行いました。運動会の様子は、後ほどお読みください。運動会前、8時30分頃になると、毎朝各教室から校長室まで子どもたちが大きな声で歌う「ゴーゴーゴー」(運動会の開会式で全校児童が歌った歌)が聞こえてきました。そして、校舎中に子どもたちの元気のいい声が響いていました。運動会が終わり、その声が聞こえなくなりちょっぴり(?)さみしさを感じている今日この頃です。

みんなが輝いていました!運動会!!

6月8日(土)天気にも恵まれ、予定通り運動会を行いました。開会式で子どもたちに「今持っている力を全部出しきってほしい」ということを話しました。運動会の子どもたちの様子を見ていますと、自分たちが出場する種目に、同じ色の仲間に向けての応援に、各色の応援パフォーマンスやその前のコールに、そして高学年は係の仕事に、今ある力を全部出しきってくれたなと思いました。それは、子どもたちの表情や姿、動きから伝わってきました。



1年生



2年生



3年生



4年生



5年生



6年生



代表リレー



応援パフォーマンス 赤



応援パフォーマンス 青



応援パフォーマンス 白



応援パフォーマンス 黄



高学年 ふりかえりの様子



運動会の準備や練習の様子を見ながら、毎年思っていることがあります。それは「非認知能力」ということです。「非認知能力」とは、やる気、忍耐力、協調性、自制心など、目に見えにくい人の心や社会性に関係する力のことです。つまり、自分を動機づけて高めようとしたり、自分の感情をコントロールしたりしながら、自分と他者を大切にできる力のことです。反対に「認知能力」は、学力検査で測定できる「学力」や知能検査で測定できる「知能」を示しています。国語や算数などの学力は認知能力の一つと言えます。非認知能力の高い人は「目標に向けてコツコツと粘り強くがんばることができる」「周りの人を思いやり、信頼関係を築きながら仲間と協調して取り組むことができる」「自分を大切に、自信をもち、前向きな気持ちを持つことができる」というような力をもっていると言われています。このような力は、普段の学校生活の中で、友達と関わり合いながら育んでいるところもありますし、自分自身の中であきらめずに根気強く取り組む中で身につけている側面もあると思います。そして、運動会の準備や練習に目を向けると、この非認知能力を高める絶好の取り組みだなどと思います。準備・練習段階では、特に6年生は自分の思い通りに進まず悩んだこと、または自分の考えが友達と違いどう折り合いをつけるのか考えたことなどもあったことでしょう。周りの人と関わる中で考えたり、時には悩んだりしながら非認知能力は高まっていくことと思っています。そういう意味で、この運動会を行う意義、もっと言うと古志原っ子発表会なども含めた学校行事には、非認知能力も含めた力を伸ばす大切な学びの場になっていることと思っています。最後に、閉会式での児童代表あいさつを紹介します。このあいさつの中にも、非認知能力を感じるところが多くあります。

今回の運動会、ぼくは本当に感動しました。まず、準備や練習です。6年生は下学年にわかりやすく、全力でやれるようにと気持ちを込めて、準備や練習をしました。それに、1～5年生が全力でついてきてくれました。うまくいかない時もありましたが、みんなで協力し、ここまで来れました。当日の本番、みんなの協力した姿が競技の姿に出ていました。すごく感動しました。たくさんの応援をしてくださった保護者の皆様、そしてここまで見守ってくださった先生方、本当にありがとうございました。この運動会での全力をこれからの生活に生かしていきましょう。

保護者の皆様、地域の皆様には、お忙しい中お出かけいただき、そして子どもたちにあたたかい拍手や声援を送っていただき、ありがとうございました。

*運動会につきましては、本校のホームページにも掲載しています。右のQRコードをご利用いただき、ぜひご覧ください。



本校ホームページのQRコード

今年度も始めています！ローテーション道徳

今年度も、学年部を中心にして学年全体で子どもたちを育てていこう、支えていこうという取り組みとして「ローテーション道徳」に取り組んでいます。これは学年部の教員が自分の担任学級だけでなく、同じ学年の違う学級に行き、道徳の授業をする取り組みです。これは主に次のようなことを目的として取り組んでいます。

○道徳の学習を通して、教員の多くの目で子どもたちをしっかりと見つめ、児童理解を深め、指導や支援に生かす。

○子どもたちが誰にでも相談したり思いを話したりできるよう担任以外の教員とも人間関係を深める。

今年度も継続して取り組んでいきたいと考えています。